

勇払原野舞台に雄大な自然環境の保全を目指す

苫東に里山を

年内にNPO発足へ

苫小牧東部地域に広がる豊かな自然環境の保全や利活用を目指すNPO法人が、早ければ年内にも発足する。勇払原野の姿を残す環境の一部を舞台に、市民参画の下、自然を楽しみながら雑木林の手入れや草刈りなどに取り組む。開発事業主体

の苫東(本社苫小牧市)も協力姿勢を示しており、関係者は「新しい里山づくりを進めたい」としている。19日には苫小牧市サンガーデンを会場に、NPO旗揚げの意義などを伝える環境フォーラムを計画している。

NPO法人の設立準備を関係者などのグループ。苫進めているのは、北海道開東環境コンソンスの名称で、発協会(本部札幌市)の職員や森林療法に取り組み、神科医、森造り市民活動の

活動方針は、苫東地域の優れた自然環境の保全と利活用。約1万坪の広大な苫東地域は、森林や湿原、原野など多様な緑地環境を抱

の保全、持続可能な利用の在り方を調査研究しており、NPO設立準備の中心メンバーを担う草刈健さん(同協会職員)は「苫東の豊かな自然を利活用しながら守る仕組みを構築したい」と話す。
苫東も、自然と共生した工業団地形成を目指す中で、同研究会にオブザーバーとしてかかわっており、NPO活動の趣旨にも賛同。草刈さんは「苫東緑地保全のサポーター的な役目

19日にフォーラム

市民参画で利活用の仕組み考える



え、勇払原野の面影を色濃く残している。そうした緑地環境の一部に活動区域を設け、趣旨に賛同した人々が自然の恵みを享受しながら、雑木林の手入れや草刈り、森林散策路(フットパ)の維持管理などに取り組む。

活動に当たっては、北海道開発協会の環境コンソンス研究会(座長・小磯修二、副会長・小磯修二、副会長・小磯修二、副会長・小磯修二)からの専門的アドバイスを受けながら進める方針。同会は、北海道の財産とされる自然環境

豊かな自然環境が広がる
苫東地域

同研究会の小磯座長が「環境コンソンスによる苫東の再生、北海道環境財団の辻井達一理事長が「勇払原野を楽しむ方法」と題して講演するほか、関係者によるパネルディスカッションも予定している。
入場無料。参加の申し込みは北海道開発協会の佐々木さん 電話011-709(5)213。